

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和3年11月22日(月) 18時00分～20時00分				
開催場所		けやき会館2階 職員研修所 大研修室				
出席者	委員	12人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	9人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 第5回推進会議の振り返りについて (2) 土地利用方針案について (3) その他 3 閉会				

議 事 の 要 旨

1 開会

2 議題

(1) 第 5 回 推 進 会 議 の 振 り 返 り に つ い て

事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

(安藤 (重) 委 員) 前 回 は、WEB 不 調 の た め 事 後 アンケートで提出させていただいた。現地を歩いてみると、約 15ha という土地は広くないため、様々な機能を盛り込むのではなく、多少絞り込む必要性を感じた。その他、首都圏南西部での位置づけや近隣都市の理解・協力、橋本と相模原の機能分担、全面返還を踏まえたまちづくり、まちづくりを担う人物や組織の必要性が重要という意見である。

(2) 土 地 利 用 方 針 案 に つ い て

事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

< 土 地 利 用 方 針 案 の 取 り ま と め に つ い て >

(高 橋 委 員) 前 回 会 議 の 議 論 が 反 映 さ れ て い る。た だ し、「ま ち 全 体 の 考 え 方」は、「本 地 区 に 導 入 す る 機 能」の 前 で 整 理 し た 方 が よ い。

(布 施 委 員) 現 状 で 地 区 の 北 側 と 東 側 に 大 き な 道 路 が あ る が、本 地 区 の 開 発 が 動 き 出 し た 際 の 工 事 車 両 や 開 発 完 成 後 の 自 動 車 交 通 を 考 え る と、将 来 の ま ち の 環 境 を 保 て る の か 疑 問 で あ る。周 辺 の 道 路 事 情 が 本 地 区 の ま ち づ く り に 悪 影 響 と な ら ね ば よ い が。

(事 務 局) 「 4 . 都 市 基 盤 等 」 の 広 域 的 な 道 路 ネットワークで、駅南北間の連携を含め、整備計画で示した自動車ネットワークの整備方針を踏まえつつ市の計画との整合を図ることとしている。今後、土地利用を具体化していく中での課題と捉えており、周辺の住環境への影響などを把握しながら進めていきたい。

(川 口 委 員) ゾ ー ニング案として 4 案提示されているが、土地利用方針では 1 つ に 絞 り 込 ま な い と い う 理 解 で よ い か。

(事 務 局) 土 地 利 用 方 針 で は 絞 り 込 ま ず、次 の 段 階 で 検 討 し て い く。

(安 藤 (孝) 委 員) 今 後 は 補 給 廠 全 体 約 200ha を 考 慮 し て 検 討 し て い く の か。

(事 務 局) 全 面 返 還 の 時 期 は 決 ま っ て い な い が、市 と 市 民 の 方 々 が 一 丸 と な っ て、全 面 返 還 に 向 け て 取 り 組 ん で い る。将 来 の 全 面 返 還 へ の 強 い 期 待 も 含 め て ま ち づ く り を 考 え な け れ ば な ら ない。現 在 検 討 し て い る 15ha の ま ち づ く り と 連 続 性 が 保 た れ る ま ち づ く り を 検 討 し て い き た い。

(安藤(孝)委員) 全面返還に向けて、道路網、鉄道網の整備は必要不可欠と考えている。また、今後、南北道路東側の検討をする際は、補給廠の方々の参画も必要と考える。

(池田委員) 広域交流拠点としての橋本駅周辺との機能分担・連携の具体化は今後検討していくということか。また、まちづくりで解決する課題の「本市の顔となる特徴あるまちづくり」も今後の検討課題という認識でよいか。

(事務局) 橋本との機能分担については、今後の留意点ということで整理している。本会議の提言として今後につながるように整理した。「本市の顔となる特徴あるまちづくり」も、これまで様々な意見をいただいたので今後につなげていきたい。

(大沢委員) 「まち全体の考え方」に、相模原駅南口地区や市内、ひいては日本全体に波及とあるが、多摩地域との連携も踏まえると、首都圏といったレベルが入っていた方がよい。

(細谷委員) ゾーニングはあくまでも案ということであれば、今後のパブリックコメントなどで誤解されないような表現に修正する必要がある。

(赤瀬委員) 各導入機能のイメージ図は、まちの将来の姿と誤解されないように工夫する必要がある。また、高橋委員と同意見だが、まち全体の考え方を先に理解したうえで、具体的な導入機能を整理した方がよい。

(事務局) 市民の方々に誤解されない中で、イメージを膨らませていただけるような表現を検討する。

(安藤(孝)委員) イノベーションのまちづくりの方向性に地域の産業立地やJAXAとの連携、多摩地域の研究機関との連携とあるが、国内外の研究者の連携という考え方も追記してはどうか。今後、全面返還が可能な時期がきた場合に、飛躍しすぎた発想かもしれないが、ロケットの発射基地なども考えたい。

(事務局) 大きな志を持って検討するべきと理解した。

(安藤(重)委員) 「まち全体の考え方」のイメージ図だが、本地区から駅南口・市内・日本全国にイノベーションが波及となっているが、相互交流だと思っているので、地区の外から中にも波及していく表現とした方がよい。

(佐藤会長) 本会議の目標は導入する都市機能を検討することである。来年度以降、土地利用計画を策定する流れと理解している。今回の土地利用方針は、まちづくりの担い手や今後のスケジュールなど課題はあるが、皆さんの意見を集約して成果としてまとめたという点で意義がある。科学技術に関わる研究者として意見を述べさせていただく。ライフは、生命と生活、人生という意味がある。イノベーションの意味は社会変革と理解している。科学技術イノベーションとは、科学技術による社会変革をイノベーションであると考えている。まちは暮らしの場であり、生業の場でもある。人々の暮らしだけや生業だけではなく、

両方考えることが必要である。暮らしは消費であり、生業は供給であるからである。暮らしと生業の連携が重要である。WHOの機能分類では、心身機能、活動、社会活動と示している。ライフの軸と産業の軸が直交してマトリクスが形成される。ライフの軸は医療、福祉、社会参加など、産業は1次・2次・3次やその複合産業などで、その交点にイノベーションがあると考えている。科学技術によってつながりを高度化し、イノベーションを行う。可能であれば、この交点の考え方を各導入機能のイメージに追記してほしい。例えば、配送ロボット、5Gなどの単語を追記した方がよい。

< 土地利用計画の策定に向けて >

(布施委員) 土地利用計画策定に当たって、リニアのメリットを考えると橋本にバスタのような施設があっても面白い。橋本でなくても広域交流拠点としてあればよいのではないか。その他には、大使館の誘致もよいと感じる。大使館に付随して、その国の文化に触れられるものが相模原にできたらよい。

(赤瀬委員) 一つの切り口として、グローバルな人材を育てる場とするため、例えば、訪れた人が英語を学べるなどの考え方があってもよい。日本の伝統文化も育てつつ英語も学べる。グローバルな人材も育つので特色のあるまちになる。英語で縛るのではなく、自然に話せるようになるまちになると、全国から人が集まるのではないか。

(川口委員) 近隣に居住する者の意見として、新しい施設をつくるのであれば、例えば既存公民館の移転や、公民館との連携ができる施設をつくってもらいたい。今回、商業機能が入ったのは良かった。要望として、今後、橋本との機能連携を議論する際は、橋本のまちづくりが分かる資料が必要と考える。

(中島委員) コロナ禍で孤独な子育てになってしまった。土地利用方針には、つながりというキーワードが入りよかった。子育てに優しく子どもを産んで育ててよかったと思うまち、高齢になっても住み続けようと思うまちが相模原にできればよい。市民活動が盛んな相模原なので、市民の力を生かしたまちづくりを行っていくのもよい。

(小林委員) 市外や日本全体には様々な役割や立場の人がいて、つながりというキーワードにより、それらの人がつながると思う。つながりの場を基盤として、意欲や得意分野が活かされる場があるとともに、災害や持続可能性の観点も組み込まれており、安心感のあるわくわくがあって、自分自身楽しみに感じている。様々な主体間で対話が生まれる機会も増えると思う。この会議で色々な意見を聞いたので、今後もこういう機会があるとうれしい。

(安藤(重)委員) この相模原駅北口地区が、テクノロジーを活用しながら市民の方々が集まるまちになることを期待している。

(池田委員) 今後はゴールを決めたスケジュールのもと検討する必要性を感じた。市も財政面やまちづくりを担う企業、人の問題などあると思うが、先を見据えて進めていく必要がある。

(細谷委員) 社会的に弱い立場の方の視点も入れ込んだ形になりよかった。子育て中の知人の意見だが、相模原の駅前がすべて広場になれば毎週行くとのことであった。この会議で出てきた「何も意味づけがない場所」も必要だと感じた。今後は、様々な人にとって心地よい空間を作ることができるように、土地利用方針を土台に議論を進められるとよいと思う。

(赤瀬委員) フランスでは、駅前がすぐに公園という都市もある。極端な例ではあるが、今までにない駅前を考えるとときには、そのような逆転の発想があってもよいと思う。

(布施委員) この 15ha だけで考えるのではなく、全面返還後は難しいかもしれないが、共同使用区域が返還された際の構想は検討してもよいと思う。

(大沢委員) 今後は事業化に向け、将来予測を行いながら客観的データを踏まえた検討を行うことが必要である。「想定される計画人口を踏まえた具体的なインフラ整備の検討」、「立地する施設に対し予測される発生集中交通量に対応できる交通基盤の検討」、「土地利用転換を実施する事業主体のあり方の具体化」、「官民連携の検討」などが必要である。またこの 15ha の土地利用が、全面返還に繋がる先行的な都市再生プロジェクトになることも期待する。

(高橋委員) 基本計画や基本構想などは一般の市民が見たり聞いたりする機会がないと思う。相模原の独自性として、例えば一般の市民が「ライフイノベーションだよね相模原は」と話をするような活動を重要視したらどうかと思う。キーワードをどう伝えるかもイノベーションだと思う。

(佐藤会長) これまでの成果を実際のまちづくりに効果的に生かしてもらいたい。ステークホルダーを踏まえないと実体のあるものにならない。生活の軸と産業の軸の交点を見ていくと科学技術が見えてくる。相模原は、多くの産業と居住者がいる。この拠点はショーケースのようなものであり、いわゆるリビングラボとして、この拠点がその周辺の住民あるいは工業の先導の拠点になっていくことが大事だと思う。まちづくりに関わる方を踏まえ、科学技術を絞り込み、このまちの顔となるものを上手く選び出し、市民との結びつきを捉えながら現実的なものにしていくことが重要だと感じる。この拠点については、周辺を含めて何に集約していくか、生活の軸と産業の軸の模式図を生かしてぜひ具体性のある案を検討してまちをつかってほしい。

(3) その他

「本日の意見を踏まえて事務局で修正した土地利用方針案を作成し、全委員に

確認すること」と「最終的な土地利用方針案の取りまとめは、佐藤会長と職務代行者の大沢委員に一任すること」を確認した。

3 閉会

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		欠席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	布施 昭愛	相模原商工会議所 事務局長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 アカデミー渉外委員会		欠席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	牧野 英太郎	株式会社 J T B 相模原支店長		欠席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席